

お名前 糸川 千尋
ご住所 津市
発生時にいた場所 度会郡錦
当時の年齢 10 歳

①伝えておきたい事（一人でも助かるように）

- ・高い所へすぐ逃げる
- ・津波は何度でも来る

②当日の様子

家族で昼食を食べていた時、立ってられない揺れで近所の多くの人が土足で我が家に上がり込んで来た事を思い出されます。その後、皆で裏山の神社に逃げた私は、4ヶ月の弟を背負って、階段を登って逃げた。すぐにその階段も水が上がり山の上に逃げた。その後4回の津波が起こり村の家や建物全部飲み込み、アツという間に村は広場と化した。津波は寄せて来るのではなく、ガッーと地下から一度にせり上がって来るすごいスピードで人も家も何もかも持ち去っていく。山は土煙りが登り、井戸の水が無くなると大人は言っていた。

③その後の生活

地域の寺、学校が避難場所となり、4年生、5年生、6年生と学習していない村人の生活の場と犠牲者の安置場所となっていた。自分の父、祖父は海に出ていたが、舟を置き山伝いに帰宅できた。親戚の多くの方が、犠牲者となり、残された子供達を父母が引き取り20人での生活が始まった。戦争がだんだん激しさを増し、若者がいなくなり、食料がなく、大変な苦労が続きました。

④現在思う事

私の経験が一人でも助かる事に通ずるならとても嬉しい。お話ができる機会を得て良かったです。